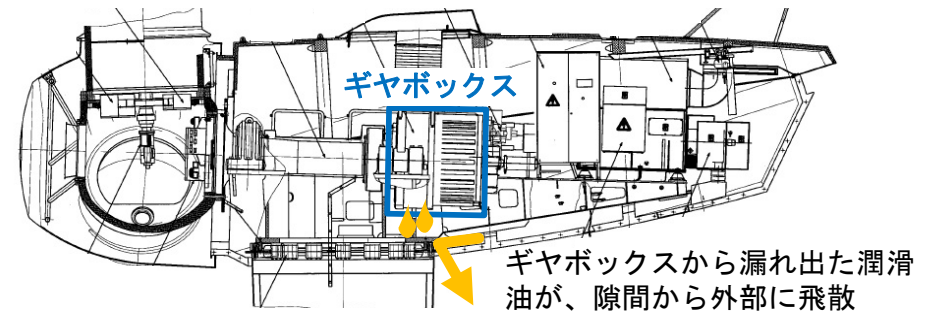


## ～桧山高原風力発電所における油外部流出対策のご紹介～

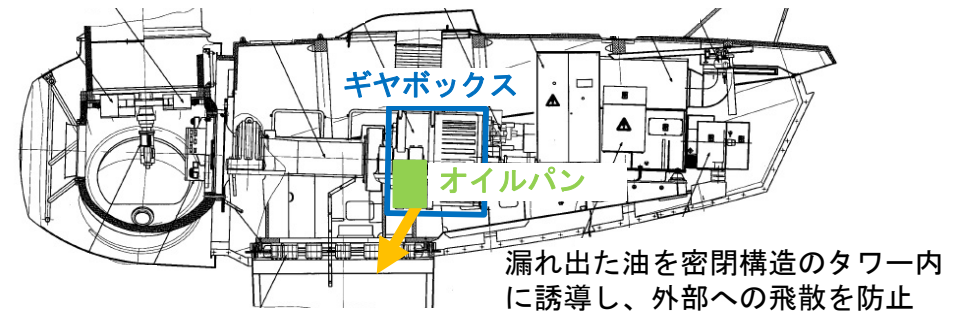
風力発電機では潤滑油等を使用しており、機器の故障などにより油が漏れ出した場合、風車外部に飛散してしまうことがあります。桧山高原風力発電所では、こうした風車の外への油飛散防止のためにオイルパン<sup>1</sup>を設置する対策を実施しています。これは、破損したギヤボックスから漏れ出した潤滑油が、風車の発電機室（ナセル）とタワーの隙間から外部に飛散する事故<sup>2</sup>があったため、その再発防止策として設置することとしたものです。これにより、万が一ギヤボックスが破損した場合でも、漏れ出した潤滑油は密閉構造となっているタワー内に誘導されるため、風車外部への飛散を防ぐことが出来ます。



【対策実施前】



【対策実施後】



<sup>1</sup> 油を使用する機器の下に設置され、漏れ出した油を貯留して外部への流出を防ぐ装置。桧山高原風力発電所のオイルパンでは、貯留した油をタワー内に誘導するホースが付けられています。

<sup>2</sup> 平成29年2月19日（日）に、桧山高原風力発電所の13号機のギヤボックスが破損し、漏れ出した潤滑油が風車の外部に飛散する事故がありました。外部に飛散した油は回収しております。また、オイルパンの設置に加えて、定期的な点検によるギヤボックスの破損の防止対策を合わせて実施しています。ご迷惑、ご心配をお掛けしました関係者の皆様には改めてお詫び申し上げます。